

平成28年度 学校評価(最終評価)まとめ

【教育方針】
 全人教育・文武両道
 教育の根底となる哲学「どう生きていけば幸せになれるのか」の追求

- 1 学 習
 ・学習に打ち込むことを通して生きる力を養い、知的で豊かな人間性を育む。
- 2 課外活動
 ・学校行事を通して絆を深め、人間関係の大切さを学ぶ。
 ・部活動を通してじけな心育て、たくましい精神力を養う。
- 3 社 会 性
 ・社会生活におけるルールや礼儀を体得し、人間としての品格を備える。
 ・地球環境について正しい認識を持ち、環境保全活動を実践する。

【目指す学校像】
 魅力と活力に満ち、地域に根づく信頼される学校

【目指す生徒像】
 学習指導、進路指導の充実により生徒の「学びの構え」と、生活指導、部活動指導等の充実より「生きる構え」を育み、心身ともに逞しく「生き抜く力」を身に付けた品格ある生徒を育成する。

【学校生活のモットー】
 「元気に！ 明るく！ さわやかに！」

- 【今年度の重点目標】
- 1 基本的な生活習慣、望ましい学習習慣を確立して学力の向上を図り、規律と責任を尊び、心豊かで充実した学校生活を送ることができるように努める。
 - 2 教育活動を通して強靱な体力や精神力、正しい判断力や豊かな情操を培い、心身ともに逞しく生き抜く力を育む。
 - 3 教員の授業力を高め、生徒の学習意欲の向上に努める。
 - 4 3年間を見据えたきめ細かい指導を行い、生徒の進路志望の実現を目指す。
 - 5 生徒・教職員が安心して教育活動が実践できる安全で快適な教育環境の保全に努める。
 - 6 生徒・教職員の激甚災害への防災意識を高め、不測の事態に安全に行動できる知識や能力を育成する。
 - 7 いじめ防止基本方針に基づき適確な指導を行い、いじめに向かわせない学校風土を醸成する。

※達成度は4段階評価
 4:大変よくできた。
 3:まあまあできた。
 2:あまりできなかった。
 1:全くできなかった。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
普通科	基礎学力の定着と応用力の養成	・英語、国語の継続的な小テストの実施 ・普通科実力テスト、普通科補習の充実 ・校内外の試験の活用による実力の把握と目標の設定	・意欲的に学習へ向かわせる体制を作り、大学入試に対応できるだけの実力を付けさせる。	毎朝の小テストで不合格になる生徒が固定化されていることから、小テストに向けた準備として、家庭学習が定着した生徒とそうでない生徒がいることが予想される。	3学年とも毎日の家庭学習を習慣化することができ、漢字検定や英語検定にも積極的に挑戦させることができた。3年生は推薦入試の比率が高かったものの、全体的に納得のいく進路を選択させることができた。	3	多様化する入試に柔軟に対応できるよう研鑽を積む。また、一般入試で合格できる学力を付けさせる。
	視野の拡大と可能性の追求	・大学見学バスツアーや大学展の活用	・自分の夢や目標が思い込みではないかと自問させ、簡単に限界を作らせず、夢を実現させる意欲をもたせる。	1年生、2年生ともにホームルームで進路選択についての具体的な指導を行った結果、早い段階から、進路選択に向け視野を広げようという意識が表れている。	1、2年生のうちから各種進路行事に積極的に参加させ、幅広く進路の知識を持たせた指導の結果、意欲を持って学習に励む生徒が増加した。	3	校内外の各種進路行事に積極的に参加させることで選択肢を増やし、高い目標を持たせて学習に取組ませる体制を作る。
情報会計科	積極的な資格取得	・夏季補習、検定直前補習、朝補習の充実	・3年間の検定取得に組織的に取組み、日本商工会議所主催の検定合格を目指す。	生徒アンケートにおいて、ほとんどの生徒が、資格取得に積極的に取組む姿勢を培うことができたと回答した。	3年生に関しては全員が全商2級以上合格という結果を残し、日商簿記検定においても数名の合格を輩出した。1、2年生に関しても検定合格率は高い。生徒アンケートにおいて、ほとんどの生徒が、資格取得に積極的に取組む姿勢を培うことができたと回答した。	3	さらなる上級資格の合格を目指し、補習の質・量ともに充実させる。
	即戦力となる人材の育成	・始業前着席、授業準備の徹底	・コミュニケーション能力の育成を念頭に置き、きめの細かい指導をする。	生徒アンケートで多くの生徒が「できている」、「おおむねできている」と回答しており、日々の学習指導、マナー指導を通して、社会人として必要な基本的資質を身に付けさせることができた。	生徒アンケートでほとんどの生徒が「できている」、「おおむねできている」と回答しており、日々の反復学習指導、挨拶指導、マナー指導、面接指導等を通して、社会人としての基本的資質を身に付けさせることができた。	3	きめの細かい反復指導、挨拶指導を徹底する。
家政科	基礎学力の定着	・学習コンクールに対する学科テストの実施	・学科全体で小テストを実施することにより、学習習慣を確立させ、基礎学力のさらなる伸長を図る。	学科全体で取組むことができた。	学科平均60点を目標としてきたが、達成できたのは第1・2回のみであった。取組みの甘さがあった。	2	クラスでの取組みに差があるため、学科全体での取組みを強化する。
	家庭科検定資格取得の強化	・検定補習の実施	・家政科生徒としての自覚を持たせ、基礎的な技術と知識を身に付けさせる。	家庭科検定取得に向けての意識付けができた。	上位級の合格率が上昇した。	3	さらなる上位級の合格を目指す。
	附属幼稚園・大学との連携強化	・幼稚園実習の充実 ・進路を含めた大学との連携	・課題研究コース別での連携を強化する。 ・大学との連携を図り、進路指導を充実させる。	幼稚園実習は計画的に行うことができ、前向きに取組むことができた。大学との連携はさらに進めていきたい。	幼稚園実習の一つとして劇を披露した。生徒の取組みが素晴らしく、好評であった。大学との連携がうまく進まなかったのが問題である。	3	大学授業の見学など、身近なところから大学との連携を図る。
食物調理科	調理技術と知識の習得	・調理師としての自覚の涵養	・個人面談を定期的に実施し、一人ひとりの特性の把握に努め、調理師としての自覚を育てる。	個人面談を定期的に実施し、生徒の些細な変化を見逃さない努力ができていた。また、生徒の進路実現の達成に向けて指導ができていた。	学校生活の問題点を早期に発見し、保護者に対しても迅速な対応ができた。1年を通じて落ち着いた学校生活を送らせることができた。	4	より一層、生徒の変化を見逃さない指導を継続する。
	地域に根づく学科	・地域活性化事業への参加 ・地元企業との商品共同開発	・地産地消をテーマに、一宮市にちなんだメニューを考案し、発表する。産学連携を一層深められるよう企業に働きかけ、商品のブランド化を目指す。	「第10回一宮モーニング博覧会」や「第35回おいち祭り」に参画した。現在は、「ベジタブルあられ」の新作を検討している。	「第5回いちのみや物産展」に参画し、ベジタブルあられを販売したり、「138ひつじプロジェクト」に参画し、138ひつじカレーを完成させたりして好評であった。食文化という側面から、地元活性化の一端を担うことができた。	3	平成26年度に地元企業と共同で開発したベジタブルあられのシリーズ化の拡充を図る。また、地元農家と共同で新しいドレッシングの開発を具体的に進める。

平成28年度 学校評価(最終評価)まとめ

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
総務課	図書館の利用促進	・蔵書管理システムの活用	・蔵書管理システムを活用し、貸出・返却業務の効率化を図るとともに、蔵書データの一括管理を行う。	中間評価はなし。	蔵書管理システム導入7年目を迎え、司書が配置されたことで、タイムリーに配架することができた。今後は館内のレイアウトを考え、書庫にある本の取扱いについて検討する必要がある。	3	効率的なネットワーク環境を構築するとともに、廃棄すべき本を選定し、利用しやすい配架にする。
		・図書に関する積極的な広報活動	・図書委員会だより「Lメール」を定期的に発行し、図書に関する情報を積極的に発信し、読書に対する生徒の意欲を高揚させる。 ・図書委員会による企画展の内容をさらに充実させ、図書館への来館者数および貸出数の増加を図る。	図書委員会による企画展「2016図書委員の推薦図書&しおりコンクール」を実施し、情報を発信することができた。	図書委員会による企画展「東京デイズニーシー15周年 The Year of Wishes」を実施したところ、好評であったため、来館者が大幅に増加した。	4	図書委員会による企画を積極的にを行い、図書館への来館者数を増加させる。
	防災に対する取組みの推進	・防災教育の推進	・避難訓練を企画・立案・実施し、災害に対する防災意識を高め、不測の事態に安全に行動できる知識や能力を育成する。	9月1日に防災訓練を実施。「あいちシェイクアウト訓練」にも登録、協賛することで、防災意識を高めることができた。	避難訓練を実施し、防災意識の向上を図ることができた。	3	「あいちシェイクアウト訓練」と協賛して、避難訓練を企画し、実施する。
		・防災マニュアルの見直し	・防災マニュアルの内容について十分に検証し、見直しをして全校生徒、全教職員に周知を図る。	中間評価はなし。	「防災マニュアル」運用3年目を迎えたが、その内容について全校生徒及び教職員に周知する機会をもてなかった。	2	防災マニュアルの内容を理解するための機会を設定する。
教務課	学力の向上	・基礎学力の定着と応用力の養成	・学習コンクールで平均60点以上を維持し、基礎力診断テストではD3(基礎学力不足)の生徒を減らすことで、入試に対応できる運用能力を身に付けさせる。	学習コンクールにおいては目標点に達することができた。一方、基礎力診断テストにおいては基礎力不足と診断された生徒の割合が約3割であった。	学習コンクールにおける学校全体の平均点は目標点を達成することができた。しかし、進路実現に向けた応用力の養成という点では、基礎学力診断テストの結果から十分ではなかった。	3	基礎力診断テストに向けた取組みとその事後指導を強化する。
		・授業規律の確立と授業力の向上	・始業終業のけじめと挨拶を徹底する。 ・ICTやアクティブラーニング型の授業を取り入れ、生徒の学習効果の向上に努める。	昼の反復学習の様子やチャイムと同時に授業開始がまだ十分とは言えない。また、授業観察や研究授業を実施することで、学習意欲を高める授業力向上に努めた。	年間を通して昼の反復学習の時間徹底ができなかった。一方、授業に関しては各教員が工夫し、生徒の学習意欲を高めるように努めた。	3	昼の反復の時間を厳守する。
生徒課	品位ある生徒の育成	・正しい身だしなみの確立	・正しい身だしなみを身に付けさせるため、日常的に生徒への声かけ指導を継続する。	正しい身だしなみをしている生徒が大半を占めるようになった。教員の声掛け指導が実りつつある。	保護者アンケートにおいて、90%の保護者が「品位ある生徒の育成に取組んでいる」と回答した。	4	日頃の声掛け指導を継続していく。
		・交通マナーの遵守	・交通安全指導を徹底し、事故「0」を目指す。	安全確認運転の登校を呼びかけた結果、事故は昨年度と比べて減少している。また、事故に遭った場合の対応がしっかりとできつつある。	ゆとり登校を呼びかけた結果、交通事故が昨年度より減少した。しかし、横断歩道を渡っていても事故に遭うことがあった。	3	交差点を渡る際の安全確認指導を充実させる必要がある。
	生徒会活動の活性化	・委員会活動の活性化	・定期的に委員会を開催して、通年で活動できる企画内容を立案、計画し、実践していく。	前期は学校行事がたくさんあり、多くの委員会が活動していた。しかし、後期は学校行事が少なく、あまり活動できてない委員会があったため、各委員会が企画を立案する必要がある。	文化祭や3年生を送る会では、生徒から大変満足したという回答を得た。計画的に準備をした成果である。	3	日頃の委員会が活動できるような計画も必要である。
		・部活動の活性化	・定期的に「部活動だより」を発行し、生徒・保護者へ積極的に情報発信していく。 ・生徒課、顧問、担任が連携を密にし、出席率50%以下の部員「0」を目指す。	顧問、担任が連絡を密にとり、部活動の活動状況を保護者会で伝え、目標を持たせて指導した結果、出席率の悪い部員はいなかった。	顧問のきめ細かい指導により、出席率の50%以下の部員はいなかった。また、全国大会に出場した部活動もあった。	4	学校と家庭がきめ細かく連携を取り、3年間継続して部活動に取り組めるようにする。
	健康管理の充実	・心身の健康に関する意識の啓発	・保健室は、健康に関するポスター掲示や、リーフレットや保健だよりの配付により、健康に対する意識を高める。 ・教育相談室は、常に落ち着いた環境に整備し、安心して利用できるよう配慮する。	保健写真ポスター掲示の工夫や、厚生労働省および環境省からの情報提供の通知により、健康意識の向上に努めた。 相談室の清掃や、安心感を向上させる環境づくりに努めた。	保健写真ポスターは、生徒・教職員ともに関心が高く、授業に活用されることもあった。 相談室は、カーテンを設置し、相談しやすい環境をつくった。	3	保健についてわかりやすく情報を発信し、健康意識への関心を高められるようにする。 相談室を利用しやすいように、呼びかけの方法や、関係部署との連携を工夫する。
進路課	納得できる進路選択	・進路シラバスの活用	・3年間継続的かつ明確な目的を持った指導により、3年間の熟慮の結果として進路選択をさせる。	生徒アンケートにおいて、「活用している」、「おおむね活用している」が全体の22%、「あまり活用していない」、「活用していない」が78%との回答であった。進路シラバスを活用しているとはいえない。	進路シラバスの活用を教員・生徒ともに呼びかけたが、年間行事予定との差異が理解されず、今年度も期待する利用状況には至らなかった。	2	進路シラバスのブラッシュアップを図る。また、学校全体で利用する機会を増やす。
		・多様な入試制度の活用	・多様な入試制度を活用させることにより、進路選択の幅を広げさせ、可能性を拡大させる。	中間評価はなし。	今年度は熟慮の上、推薦入試を利用した生徒が増加した。	3	様々な入試制度を提示することで、受験プランを立てる際の参考にさせ、可能性を広げさせる。
		・就職試験対策の強化	・就職試験対策補習を行い基礎学力の定着を図る。また、一定基準以上の面接力を持てるように指導し、進路志望の実現を図る。	基礎学力定着のため、各自が学習コンクールや基礎力診断テストへ取組んでいる。面接対策としては、各学科教員の協力も得て、生徒の面接ノート作りへの取組みもよい。	就職内定率は11月上旬に100%であった。面接対策は、生徒の面接ノート作りへの取組みがよく、各学科教員の協力も得て、成果をあげることができた。筆記試験に向けては、学習コンクールや基礎力診断テストへの取組みが有効であることが浸透した。	4	面接が苦手な生徒の指導を充実させる。
広報課	情報発信の充実	・ホームページのリニューアル ・ホームページの更新率100%を継続	・SNSとの連動により年間ホームページ訪問者数を拡大させる。 ・緊急連絡を迅速にホームページへアップする体制を強化する。	中間評価はなし。	ホームページのコンテンツは充実させることができた。訪問者数は昨年度比7%UPで、コンテンツ更新率も100%であった。緊急連絡の体制については、危機管理が十分とは言えない。	3	緊急連絡の体制について不十分なところを補い、強化する。